

令和4年度 第2回さいたま市立教育研究所運営委員会会議録

1 開催日時 令和5年1月26日(木) 10時00分～11時15分

2 会場 さいたま市立教育研究所 2階 第2研修室

3 出席者名

<運営委員会委員>

※敬称略

堀田 香織(委員長) 青木 孝夫

河野 秀樹 渋谷 恵子

安藤 幸子 小林 正美

入澤 真理香 野津 吉宏

神田 朋恵 紺頼 麻子

安藤 真理子 新井 俊之(代理出席)

鈴木 成子(代理出席)

<事務局職員>

所 長 深津 健太郎

所長補佐 後藤 正憲

調査研究係長 大澤 貴史

研修係長 阿部 史朗

I C T教育推進係長 太田 康雄

欠席者名

<運営委員会委員>

吉野 浩一、吉田 賀一

4 会議の公開 公開

5 傍聴人 0人

6 内 容 (1) 令和4年度各係の事業報告等について
(2) 質疑、協議

7 問い合わせ先 さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所
電話 048(838)0781

8 質疑応答・協議要旨

○=委員から ・=所員から

委員	○スクールダッシュボードはいつから始まるか。
事務局	・スクールダッシュボードは、現在プロトタイプを市内に11校置き、研究を進めているところである。それをもとに、来年度、本システムを構築し、来年度3学期にはテスト運用できるように全校展開したいと考えている。
委員	○タブレットが修理に出すと返ってくるのに時間がかかっている。タブレットに保険を掛け、そちらで修理対応したほうが早いのであれば、そのような方法でもよいのでは。また、他県では学校に予備が40台あり、壊れてもすぐに交換できる。現在の状況では、壊れてしまったら、他の子のタブレットを使う状況である。今後どのように考えているのか。
事務局	・月に250件くらい報告が上がっている。一度修理に出すと6か月くらい返ってこない状況である。市内で250台から1500台程度が常でない状況である。現在行っている対応としては、小さいタブレットを代替機として貸与している。それを2000台ほど用意していたが、すべて貸し出して、順番待ちの状況である。今後の対応としては、修繕をより早くなるよう業者と調整を進めている。また、修繕の代替機については予算獲得に向けて進めている。2月議会終了後、ご報告する。
委員	○今の件について校長先生に質問したい。タブレットがない状況をどのように対応しているか教えてほしい。
委員	○小学校は、他の児童のものを借りたり、欠席の児童のものを回したりしながらやっている。
委員	○中学校も休みの生徒のタブレットを使用させている。タブレットとノートパソコン機種が混じっていると、キーボード操作を必要とするツールなどが使用できないなど不便がある。
委員	○それに関連して、P26のICT機器の整備にあるプロジェクターの設置やネットワークの増強など、タブレット以外の環境についてはいかがか。
委員	○中学校は改善されている。業者に何度も訪問してもらい改善された。
委員	○小学校も改善されている。体育館のネットワークも改善された。ネットワークの不具合があった際にはすぐ指導主事にきてもらい、つながりやすいようアクセスポイントを調整している。だが、できればアクセスポイントは増やしてほしい。プロジェクター設置、新設ではなく、その後の移動の費用は学校負担ということになっている。その点は改善してほしい。
委員	○改善されつつもより改善してほしいということか。プロジェクターはいかがか。
委員	○プロジェクターについては、先生方が工夫して授業改革を行っている。授業を変えていくという意識が高まってきている。今後も授業改善が進んでいくと思う。
委員	○プロジェクターはかなりで重宝している。年配の先生も活用している。タッチペンが壊れてしまうと修理に1万円かかることを改善してほしい。プロジェクターについて、本校ではPTAがホワイトボードを寄付してくれ、黒板に貼って見やすくなっている。

委員長	○ICT 環境の整備について協議いただいた。他の御意見はいかがか。
委員	○ICT 支援員について来校頻度は増えないのか。
事務局	・国が出している方針で、今のところ月2回となっている。御不便はあるが、ICT については、校内エバンジェリスト中心に進めてほしい。
事務局	・ICT 支援員のほか、ものは整備しているが、調査すると ICT 活用に差がある。実際の先生方の状況について校長先生方にうかがいたい。
委員	○小学校では、IT リテラシーに関しては、年配、新しく入ってきた臨時的任用教員の活用に課題がある。
委員	○中学校も、差はある。年配の先生だけでなく、苦手意識がある教員がいる。ICT 活用が得意な教員がサポートしている。
委員	○本校中学校でも同様。教員の活用する意識はあると感じる。
委員	○特別支援学校でも同様。差はあるが、サポートしながら進めている。
委員	○小学校本校でも同様である。研修について、オンライン研修で ICT について勉強している教員もいる。たくさんの種類があり、短い時間で研修できるものがあるとよい。
事務局	・短い時間で先生方が学びたい時にいつでも学べる研修コンテンツがあるとよいというお話があった。先生方の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、来年度我々がやろうとしていることは、学びたいときにいつでも学べる研修のコンテンツを揃えていくことである。企業や大学と共同で研究しながら行っていく。
委員長	○教育実習に行った学生に事前に何をしておけばよかったかと質問すると、ICT 活用と指導案の書き方について回答することが多かった。大学の教員養成段階でも重視していきたい。他はいかがか。
委員	○学力向上カウンセリング学校訪問は分析を示していただき、学校の学力を診断してもらい本当によかった。CBT 化されているのだから、AI などの分析ができるとよい。授業改善について分析結果が出る。
事務局	・調査研究係も力を入れている。学校が自分自身で分析するという点も重要だと考えている。AI の分析については、今後のスクールダッシュボードでデータを活用することで分析できるところもある。
委員長	○学力向上カウンセリング学校訪問について他に意見はあるか。
委員	○前期のカウンセリングがあることで、指導訪問と合わせて指導改善につながっている。
委員	○訪問は毎年行うことがいいことなのか教えてほしい。分析活用は学校では難しいと思う。視点を示していただけるのはありがたい。
事務局	・年2回実施している。毎年応募していただいて結構である。お子さんの実態、先生方も変わる。ぜひ活用していただきたい。
委員	○全職員が対象なのか。
事務局	・前期と後期に分けている。前期は調査のメッセージを重視、後期は調査結果をもとに学校の実態に即した分析を行っている。形態は学校ごとに管理職対象に分析を示し、教職員に対してこんな研修をしてはどうかと提案するものがある。全職員を対象にしたかたちもある。小・中一貫で行ったこともある。オンラインでも行える。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 希望があればいくらでも指導主事が訪問するつもりでいる。その一方で、先生方自身で調査結果を分析しどのように授業改善に生かしていこうかという視点をもつていただくことも必要。正に本日の協議テーマである、教員の主体的・対話的で深い学びの実現を念頭に置きながら調査研究係では事業を進めている。こうした事業の趣旨も御理解いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○この研究所で取り組んでいることすべてに関わるが、学校が自走していく、そういうものにしていきたい。そのためには教育委員会がどのようにはたらきかけていくのか、その在り方についての意見をうかがいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○自走していくことまでは分からないが、働き方改革、業務改善としては、先生方は、減らすことの意識はある。しかし、減った時間でどんな研修を受けたのか、どのように授業改善したのかという質問してもなかなか返ってこない。達成状況面談の際に、研修の成果という項目がある。自己評価 A をつけた場合、その内容を教員とのコミュニケーションで振り返ればよいが、実際は把握できていない。初任者だったら初任者研修があり、帰ってきたときにどうだったのか聞くことはできる。だが、すべての教員とそのようなコミュニケーションをとることは難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○免許更新制が終わった後の研修は研究所が行うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・免許更新が発展的解消されて、それを担保する研修として新たに何かを設けるということを研究所は実施しない。逆に、先生方が学びたいと思えるものについてきちんと対応できるような研修を整備する。その一つが先程お伝えしたアラカルトのような、学びたいときに学べるコンテンツである。また明確なものができたらお伝えしていく。そして、発展的解消について国が言っていることは、ぜひ一人ひとりの先生方の学びをサポートしていく、校長先生が行う当初面談において、先生方との対話を通して、受講奨励をしていくシステムが導入される。そのシステムで来年の3学期以降、先生方の受講の履歴が表示されることになるので受講奨励のサポートを行っていくことになる。御活用いただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○それが学校の波及効果になればよい。各学校で自走していく仕組みについて他に意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○当初面談では、研修の項目があり、先生たちが考えて書ける貴重な機会である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○教育研究所の取組をいつも拝見していると素晴らしいと思う。受講奨励や新しい研修制度が始まるといいスタートを切れると思う。コンテンツ作りもそうだが、教育研究所が行った年次研修をはじめ、様々な研修が、やはり数としては圧倒的に現場での実践が多いわけである。気になるのは、教育研究所として、実際に学校において、どれだけ実践できたかというところの働きかけである。機関研修としてされていることを学校研修とどう連携するか。その点について、何か考えはあるか。現場の考えも伺いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の学びが重視されていくというのは今後の国が示している方向性であり、そのような学びを充実させていきたい。また、我々が行っている研修において、本当に効果が出たのかも検証していく必要がある。そこで来年度は、我々が行った研修の成果の確認をするためのシステムについて国の補助金を使って研究していくことを考えている。ま

	<p>た、こういった場を通して、校長先生方の意見をいただき、研修の進め方について、我々がこういう意図をもって行っていることや、学校では研修に対してこういうニーズがあるということを意見交換し、目線を合わせて進めていきたい。</p>
委員	<p>○文部科学省がパソコン室をなくして、高度パソコンを入れるというように通知を出している。利用方法について教えてほしい。</p>
事務局	<p>・安易に廃止するなという趣旨である。さいたま市は児童生徒の増加から教室の確保もある。パソコン室そのものは必ず残せというわけではない。</p>
委員長	<p>○今日の多くの意見を今後の運営に生かしてほしい。</p>